

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 21 年 4 月 16 日 (2009.4.16)

【公表番号】特表 2008-539653 (P2008-539653A)  
 【公表日】平成 20 年 11 月 13 日 (2008.11.13)  
 【年通号数】公開・登録公報 2008-045  
 【出願番号】特願 2008-508835 (P2008-508835)  
 【国際特許分類】

H 0 4 B 10/04 (2006.01)  
 H 0 4 B 10/06 (2006.01)  
 H 0 4 B 10/14 (2006.01)  
 H 0 4 B 10/26 (2006.01)  
 H 0 4 B 10/28 (2006.01)

【F I】

H 0 4 B 9/00 Y

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 2 月 23 日 (2009.2.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基準値を有する基準信号入力と、

第 1 の差動入力信号と基準信号とに対応して第 1 の出力信号を生成するように構成された第 1 の逆ピーク検出器と、からなり、

同第 1 の逆ピーク検出器は、

第 1 のノードのところで第 1 の抵抗と結合して、前記第 1 の差動入力信号を受信する第 1 のコンデンサと、

前記第 1 のノードと結合している第 1 のダイオードと、

前記第 1 のノードとアースとの間に結合している第 1 のスイッチと、

第 2 のノードと前記第 1 のダイオードの間に結合して、前記基準信号および第 1 の出力信号を受信するように構成された第 1 のアンプと、

前記第 1 のノードと第 2 のノードとの間に結合して、前記基準値より大きい値にシフトした前記第 1 の差動入力信号のレプリカである前記第 1 の出力信号を発生するように構成された第 1 のバッファと、

第 2 の差動入力信号と前記基準信号とに対応して、前記基準値より大きい値にシフトした前記第 2 の差動入力信号のレプリカである第 2 の出力信号を生成するように構成された第 2 の逆ピーク検出器と、からなり、

前記第 1 の出力信号の最小値および前記第 2 の出力信号の最小値が、前記基準値以上である、回路。

【請求項 2】

入力信号を受信するように構成され、また第 1 の入力信号および第 2 の入力信号を発生するように構成された差動コンバータと、

前記第 1 の入力信号および前記第 2 の入力信号を受信するように構成され、また第 1 の差動入力信号および第 2 の差動入力信号を発生するように構成されたアンプと、

をさらに備える請求項 1 に記載の回路。

**【請求項 3】**

前記第 1 の出力信号の最小値が前記基準値より上に位置する請求項 1 に記載の回路。

**【請求項 4】**

前記第 2 の逆ピーク検出器が、

第 3 のノードのところで第 2 の抵抗と結合して、前記第 2 の差動入力信号を受信する第 2 のコンデンサと、

前記第 3 のノードと結合している第 2 のダイオードと、

前記第 3 のノードとアースとの間に結合している第 2 のスイッチと、

前記第 4 のノードと前記第 2 のダイオードとの間に結合して、前記基準信号および前記第 2 の出力信号を受信するように構成された第 2 のアンプと、

前記第 3 のノードと前記第 4 のノードとの間に結合して、前記第 2 の出力信号を発生するように構成された第 2 のバッファと、を備え、

前記第 2 の出力信号の最小値が前記基準値より上に位置する請求項 1 に記載の回路。

**【請求項 5】**

逆ピーク検出器回路であって、

基準値を有する基準信号入力と、

ノードのところで抵抗と結合して、差動入力信号を受信するように構成されたコンデンサと

前記ノードに結合しているダイオードと、

前記ノードとアースとの間に結合しているスイッチと、

前記ノードと第 2 のノードとの間に結合して、出力信号を発生するように構成されたバッファと、

前記第 2 のノードと前記ダイオードとの間に結合して前記基準信号および前記出力信号を受信するように構成され、前記出力信号の最小値が前記基準値以上である、アンプと、を備える逆ピーク検出器回路。